



# みのり

## 第100号



### 経営理念

Management  
Philosophy

### 花のように優しく 誠実に

私たちはみのりの精神である慈愛・奉仕・研究を基本精神とし、地域・社会より愛され、認められる法人をめざし、社会福祉事業の担い手として、地域・社会へ貢献します。



発行日

令和2年1月29日

発行者

社会福祉法人 みのり村

印刷

株式会社 クリエイツ

掲載内容

- 2 祈願並びに年始「令和二年を迎えて」
- 3 施設整備など
- 4 スキルアップ研修
- 5 施設見学・column
- 6 「地域との絆を大切に」
- 7 みのり村の地域・社会貢献
- 8 福利厚生 寄贈



# 祈願式並びに年始『令和二年を迎えて』



みのり村正法寺にて新年祈願式を、役員一同で執り行いました。

続いて本部（菩提樹）ホールにて、全職員参加のもと年始を開催しました。年始では、特別功労者として勤続30年の「みのりスマイル」藤本征四郎氏（81歳（職員最高年齢））が表彰されました。藤本氏には表彰状と記念品が贈呈され、長年みのり村に貢献してきた功績を称えました。藤本氏からはみのり村と共に育んだ30年の歩みと皆様への感謝の謝辞がありました。

引き続き、大木理事長より全職員に「これからの時代は少子高齢化などの影響で難しい時代になります。社会全体が複雑化・多様化する中、自分一人のみがよければよいといった風潮があります。このような時代こそ、原点に立ち返り、優しさや助け合いの心をもって業務に邁進していただきたい。」と訓示がありました。

（1月3日）



理事長年頭挨拶

## 功労者表彰



長きにわたるご功績に感謝します

### 特別功労者表彰受賞者 謝辞

皆さま、明けましておめでとうございます。本日は特別功労者として表彰をいただき、少し戸惑っておりますが、この様な場を設けていただきましたので、これまでの30年とこれからのことについて少しお話しさせていただきます。

私とみのり村との出逢いは、平成元年四月、知人からの紹介でした。先ず、私に課せられたテーマは「国道沿いに大きな花壇」をつくることでした。みかん園を開墾し、幅一五m・長さ五五mの大花壇の造成。夏は赤いカンナ。冬は葉牡丹とパンジーなど。花苗をつくるハウスもなく、休耕地を活用し、トンネル栽培で数千本の苗を用意し、ご利用者の皆さま、職員各位のご協力を仰ぎ、ご要望にお応えしたことで、国道を利用する方々に、長年にわたり楽しんでいただくことができており、現在も後継の皆さまにより立派に引き継がれております。

入職して一五年目に新たな試練が訪れました。制度が変わり、大神に「みのりスマイル」を立ち上げ、ご利用者に就労支援と工賃の支給を課せられることとなりました。そこで、私は花苗の生産と販売を掲げました。大型ハウスを二棟いただき、各種の花苗を生産。販売も軌道に乗り、これも後継の方々に引き継がれております。その他にもリサイクルの回収事業を選択。園内はもとより、遠く近くにかかわらず、回収作業を徹底することで、大きな収益を上げることができましたが、残念なことに、昨年末をもって回収事業を終了することとなりました。

その後、私は果樹栽培を選び、みのり園裏の竹林を平成一五年に開墾。先ずは、一〇〇本の「渋柿」を植え込みました。当時は、柿であれば「甘柿」との声が多く寄せられましたが、「渋柿」を選びました。需要の増大に配慮し、現在は二六六本の「渋柿」を栽培。好評のうちに、完全し、ご利用者の工賃の大きな財源となつております。次に私が選んだのが、イチヂクの栽培でした。イチヂク栽培の情報収集に幾度となく訪れたイチヂク園のオーナーさん、高齢を理由に管理が困難、無償で貸し出して居ります。同時にみのり村の一枚の休耕地を借用。挿し木で増殖した「イチヂク苗」六〇本を定植。昨年九月より収穫できるほど成長し、みのり村前のイチヂク園が誕生したことは大変に喜ばしく、将来の財源の柱の一つとして大切に育てて居ります。振り返ればこの職場で三〇年。様々な試練に耐え、自身の健康に留意し、お陰様で皆さまに支えられ、大過なく今日まで働くことができております。

今後は、今まで以上に皆さまからのご支援とご協力を賜り、共に力を合わせ、ご利用者の為に尽力知る所存でございます。本日は、誠にありがとうございます。

令和二年一月三日 年始

障害福祉サービス事業所 みのりスマイル 藤本征四郎



# 夫婦村解体

## ～36年の幕を引きました～

国際障害者年が定められ、我が国で初めて障害者施策の長期計画が実施された。昭和58年、みのり村に夫婦村が開設されました。爾来36年間、建物を管理してきました。しかし、近年建物の老朽化とご利用者が高齢化し、施設の維持が難しくなったことから、令和元年の年の瀬に解体が実施されました。

赤い屋根瓦が特徴の四棟は、当時我が国で初めて作られた障がいがある夫婦が生活する村でした。

当時の広報誌を拝読すると、長年創設者がこの夫婦村の建築を待望し奮闘していたこと。地域の皆さまをはじめ多くの方々の御理解と御支援があったことが伺えます。誌面には、『結婚式を挙げ、一戸建ての家を作りました。併し、家や経済のみでは、夫婦の幸せは約束されません。施設という温室と福祉という防波堤で育った人々の社会人としての行手は、厳しいものがあります。真実の幸せは、地域の人人から受け入れてもらい、愛されてこそ、はじめて幸せになれるのです。』とあります。

この夫婦村は、障がいがある方が地域で生き生きと生活できるように導こうとした、共生社会への取組みの先駆けでした。これは創設者の想い「生かされる生活より、生きる生活へ」が成し遂げた実績だと思えます。

令和の現在まで、温かい御理解と御支援を賜りました皆さま方に厚く御礼を申し上げます。



令和元年12月  
夫婦村解体前日  
(赤い屋根の建物)

## 白萩園空調設備改修工事が完了致しました。

(平成31年4月1日～令和元年8月31日施工)



快適な居住空間になりました

## 2名の外国人技能実習生を受け入れました ～特別養護老人ホーム菩提樹～ (1月14日)



(左から) 榮木副施設長、カリンさん、クリスティンさん、安部施設長



# アンガーマネジメント研修開催

## ～怒りの感情をコントロールする～

# スキルアップ研修



講談の様子

今回の研修では、スタッフ同士の価値観を共有するため、話し合いの大切さを改めて学びました。  
(本部)

令和元年11月26日、12月12日の2日間に渡り、法人内の各拠点3ヶ所で計6回、外部講師によるアンガーマネジメント研修を開催しました。研修会は、延べ200人を超える多数のスタッフが参加する非常に関心の高いテーマでした。緊張な面持ちで参加したスタッフも講師の軽快なトークで雰囲気も和み、グループワークでは、楽しく「怒り」のメカニズムを探って行きました。

令和元年11月26日、12月12日の2日間に渡り、法人内の各拠点3ヶ所で計6回、外部講師によるアンガーマネジメント研修を開催しました。研修会は、延べ200人を超える多数のスタッフが参加する非常に関心の高いテーマでした。



グループワークの様子

## 普通救命講習

### ～救命処置の大切さを学ぶ～

特別養護老人ホーム菩提樹にて、スタッフ13名が救命講習を受講しました。講習では杵築速見消防組合消防本部の方々より、止血法や異物除去法などの応急手当法を学び、その後AEDを使用した心肺蘇生法の実技訓練を行いました。  
(9月30日)



心肺蘇生法の訓練

## 地域のなかで穏やかに暮らす ～グループホームみのり村 研修会～

障害者支援施設白萩園/地域交流センターにて、グループホームみのり村の研修会を開催しました。現在のみのり村が運営する5棟グループホームからご利用者や関係スタッフなど34名が参加しました。

(9月6日)



皆さん 真剣に意見交換をしました

## 施設訪問「ようこそ みのり村へ」

### 佐伯市老人クラブ北中明寿会の皆さま 17名が菩提樹を見学

佐伯市老人クラブ北中明寿会の皆さまが菩提樹にお越しになりました。施設の事業内容について説明をした後、ご利用者が生活されている各ユニットをご覧になりました。皆さま熱心に見学され、「どのユニットも広くて落ち着きがあり自宅のようにつろげる環境ですね」などの感想をいただきました。  
(11月25日)



個室ユニット型 特別養護老人ホーム菩提樹を見学

### 遠方からお越しいただき ありがとうございます

- ・ 岡山県奈義町民生委員  
児童委員協議会委員 様  
(19名) 8月21日
- ・ 佐伯市東地区社会福祉協議会 様  
(16名) 10月7日
- ・ 島根県大田市議会  
民生常任委員会 様  
(8名) 10月8日





審査委員長(木村写真館長)賞  
『大きな落ち葉を発見!!』



第8回

「介護つて素晴らしい」  
フォトコンテスト  
3作品が受賞しました

入賞



『なかなかすくえんなぁ』



『来年も花見しような』

“全国個室ユニット型  
施設推進協議会”から  
個室ユニット型施設として  
特別養護老人ホーム  
菩提樹が  
10年の活動を  
表彰されました



令和元年度  
大分県高齢者福祉施設等実践研究大会  
～高齢者福祉部から2チームが参加～

レンプラント  
ホテル大分にて  
開催された「大  
分県高齢者福祉  
施設等実践研究  
大会」に、高齢  
者福祉部から2  
チームが参加し  
ました。曾我・  
渡邊チームは  
「活動的な毎日  
へ」、大谷・本  
田チームは「ヒ  
ヤリしたら変  
化のチャンス」  
のテーマでそれ  
ぞれ発表しまし  
た。(11月12日)



デイサービス大谷・本田チーム



菩提樹曾我・渡邊チーム

column わたしの職場リレー紹介 vol.1

菩提樹まちかど交流サロン「福ろう」  
～地域の方々と共に生きる。一人でも多くの方と共に～

管理スタッフの中原さんにインタビューしました。

福ろうの管理スタッフ  
中原章价さん  
(写真中央)

Q1. 今の仕事の面白い部分は？

ご利用する皆さまが福ろうの行事などを通して“ふれあう”ことを楽しみにしていること。継続して来ていただいていることに地域での必要性や充実感を感じています。スタッフを信頼し色々相談していただいていることが、やりがいですね。

Q2. 今チャレンジしたいことを教えてください。

民生委員児童委員協議会や地域包括支援センター、ボランティアグループなどと連携し、家に閉じこもりがちで一人暮らしの高齢者が、一人でも多く福ろうを利用できるシステムを作れたらと思います。

Q3. 福ろうを今後はどう考えていますか？

平成27年にオープンしてから、延べ利用者数は令和元年12月末現在で3万524名となりました。今後も地域の憩いの場としての役割を果たせたらと思います。



46回目になる認知症カフェのメニュー



認知症予防が期待できるカレーライスでランチ



“きつみん体操”で元気アップ!!



浪曲を楽しみました

次回は、  
“ワークセンター「誠」”です。



# 扉をひらいて下さい ～つながる手と手 Heart & Art～

表現方法は人それぞれだけど、  
障がい児・者、高齢者が一つ一つの作品に想いを込めています。



令和元年11月大分市アートプラザ、令和2年1月日出町交流ひろばHiCaLiにて開催して参りました「みのり村作品展」も関係各位のご協力を頂き無事終了することができました。

多くの皆さま方にご来場頂きましてありがとうございました。心から御礼申し上げます。



大分市アートプラザ

「地域との絆を大切に」  
みのり村の地域・社会貢献

## 地域交流

ワークセンター「誠」いち押し工房にて、地域交流餅つき大会を開催しました。「よいしょよいしょ」の威勢の良い掛け声とともに、杵を振るい、ベッタパンベッタパンとお餅をつきました。  
お手伝いいただいた野田区長をはじめ、野田区民生委員・老人クラブなど地域の皆さま、ありがとうございました。  
(12月27日)

新しい年に向けて  
お餅つきでふれあい  
地域の皆さまと  
カ合わせ声合わせ

たくさんの声援や拍手、  
笑い声が響きわたった



杵築障がい福祉部

## “第67回 みのり村ふれあい体育祭”



高齢者福祉部



日出障がい福祉部





# 第68回 みのり村創立記念日並びに永年勤続者表彰



20名の表彰者

みのり村創立記念日に、勤続40年表彰3名、30年表彰1名、20年表彰5名、10年表彰11名の計20名が永年勤続表彰を受けました。表彰者の方々には大木理事長より、表彰状と記念品が贈られました。

表彰者代表として、白萩園 越海ひとみ支援員より勤続40年の想いが込められた謝辞がありました。

(12月6日)

勤続	氏名	所属
40年	吉田由美子	第2みのり学園
	越海ひとみ	白萩園
	岡本 享子	
30年	藤本征四郎	みのりスマイル
20年	清原 和典	第1みのり学園
	諸富 一之	白萩園
	川崎 郁子	
	鈴木 穂	菩提樹
	大塚 久美	居宅支援事業所
10年	長友 朋子	第1みのり学園
	阿部 香月	白萩園
	桐 久恵	
	清末かおり	菩提樹
	小妻 由香	
	大川 京子	
	曾我ひとみ	
	後藤 節子	
	黒瀬 幸恵	
	河合 秀典	
	大谷 健一	

## 第15回 みのり村 作品展



つながる手と手

永年勤続表彰受賞者謝辞  
 永年勤続表彰者を代表致しまして一言謝辞を述べさせていただきます。

本日は、私どもにこのような盛大な表彰式をして頂き、厚く御礼申し上げます。

今振り返れば細く長い40年の道のりではありましたが、決して一人ではできなかつたでしょう。多くの諸先輩の皆様、同僚の皆様、家族の支えがあったことに深く感謝しています。今、毎日がとても楽しく、一日一日を大事に生きて、ご利用者と接することができるようになりました。この仏様の前で新人職員入村式を迎えました。名誉理事長ご

夫妻は朝夕必ずご利用者、職員に声をかけて下さい。この子達を敬い大事に。そして、挨拶の大事さ。いつも言われていました。また座禅もあり、張り詰めた空気の中で、心を集中し、ただひたすらに座禅を組んでいくことを思い出します。仏様に導かれるように、素直で障がいを障がいと思えないほど明るく、お兄ちゃんがお弟のお世話をするようになり、互いに助け合いながら、生活されています。

みのり村が目指していたのは、この広い土地を活かしての自給自足の施設づくりで、収穫された野菜はどれも美味しく料理に出ています。しかし、福祉を取り巻く環境は大きく変わり、みのり村も大きくなり、各事業所でのサービスが展開されています。若い人たちは、私達の何倍もの知識をもち、実践で活かし努力されているのを見て類もしく思っています。

ご利用者やご家族、地域の皆様から信頼される職員として、みのり村創設六八年の歴史に恥じないよう、快い挨拶から始まり、笑顔で送り、挨拶の瞬間の介護の大切を実践し続けていきたいと思っております。

本日はこのように名誉ある賞を頂き、誠にありがとうございました。

令和元年二月六日  
 創立記念日  
 障害者支援施設 白萩園  
 越海ひとみ

※誌面の都合上、要約して掲載させて頂いています。

## 令和2年度 入職予定者内定式



7名の皆さん、よろしくお祈りします

みのり村本部で来春入職予定の学生を対象とした内定式を行いました。

新社会人になる期待を胸にした学生は、緊張した面持ちで内定証書を受け取りました。来年4月から皆さんと一緒に働けることが今から楽しみです。

(10月26日)

「cafe m・歩っ」での懇親会



## 地域の子どもたちと「お芋」で交流!!“地域公益事業”

特別養護老人ホーム菩提樹にて福祉交流会「お芋をいっぱい食べよう会」を開催しました。交流会には、八坂小学校「竹の子クラブ」の児童10名やその保護者が参加しました。

(11月16日)



お芋でホッコリ、ニッコリ

## 『大分短期大学×早稲田大学 WELCOME GARDEN』の作品コンテストで“インスタ映え賞”をいただきました

大分短期大学と早稲田大学との協働イベント『早稲田大学×大分短期大学 WELCOME GARDEN ~触れて体験!癒しの園芸療法~』に、みのり村の就労支援事業所が参加しました。当日は高校生や大学生など多くの方と交流することができ、“みのり村の6次産業”についてお伝えする良い機会となりました。

ありがとうございました。(11月9・10日)



入賞作品

パークプレイス大分にて

パパ、ママ  
育児応援!!



ゆらゆら  
気持ちいいなあ  
"茉莉子ちゃん"

藤澤 綾香さん

初めての子育てで不安もありましたが、たくさんの方にサポートをいただきながら育児ができ幸せです。娘の小さな成長を見守りながら私も頑張っていきたいです！

藤原なみ子さん

娘と過ごす毎日は、宝物の様に大切な日々だと感じます。どんどん食べて元気に育ってね。



おもちゃが大好き  
"ひなちゃん"

工藤 裕平さん

日頃、あまり外出出来ないで育児休暇中は色々な場所へ行きました。

見たり触ったりする娘の興味津々な姿を見て、成長の早さに驚かされることばかりでした。これからの成長も楽しみです。



パパとマイメロちゃん  
ニコニコ!!  
"凧祥ちゃん"

みのりスマイル

丸紅基金様ウッド  
チップを贈って  
いただきありがとうございます  
ございます



大分合同新聞  
令和元年12月3日掲載

丸紅基金様より助成金  
128万円を贈っていただき、木の枝を粉砕する機械を購入することができました。ありがとうございます。(11月19日)

その他にも各方面から寄贈していただき、  
ありがとうございます。

- ・成重様 トイレトペーパー 20パック (9月3日)
- ・渡辺モーターズ様 バナナ20箱 (9月7日)
- ・「小さな親切」運動杵築市支部様 タオル (12月9日)
- ・狩宿里海・里山プロジェクト様 柚子 (12月10日)
- ・大分県信用組合様 りんご (12月13日)

寄贈

後藤隆二絵画作家様(三重町)より  
8点の絵画を寄贈していただき  
ました。ありがとうございます



掲示施設「プリンちゃん」



掲示施設「白萩園」  
(写真右側)

編集後記

時代は平成から令和、21世紀も早20年が経ちました。20年前を振り返ると、当時流行の音楽や学校帰りに寄っていた駄菓子屋など、当時の情景が今でも鮮明によみがえります。「時は金なり」とありますように、いつの時代でも、大切にしなければならぬと強く感じています。  
さて、広報誌「みのり」も100号の節目を迎えました。これからも広報委員会スタッフ一同、法人行事などについて皆さまに分かりやすくお伝えできるよう、1号1号大切に作成させていただきます。  
今後とも宜しくお願い申し上げます。(広報担当)

編集・発行/本部人事企画課

〒873-0013 大分県杵築市大字日野1921の7  
TEL 0978-66-1200 FAX 0978-62-2974  
URL <http://www.minorimura.or.jp/>  
メール [info@minorimura.or.jp](mailto:info@minorimura.or.jp)

※写真掲載等には、  
ご本人の了解を得ております。



総合福祉ケアサポートセンター  
みのり村

- 特別養護老人ホーム 菩提樹(個室ユニット)
- ショートステイ事業
- 菩提樹デイ「風と樹々と空と」
- ケアプランセンター ぼだいじゅ
- ホームヘルパーステーション ぼだいじゅ
- 配食サービス
- 在宅介護支援センター ぼだいじゅ
- えむほ ガーデン(Café m・歩っ・えん)
- 障がい者支援施設 第1みのり学園
- 児童発達支援センター「プリンちゃん」
- 障がい者支援施設 第2みのり学園
- 障がい者支援施設 白百合園
- みのりスマイル(就労)
- 総合相談支援 M・プラザ HIJ I
- 障がい者支援施設 白萩園
- ワークセンター「誠」(就労)
- みのり村 いち押し工房
- グループホーム みのり村
- 総合相談支援 M・プラザ KITUKI
- みのり村介護・福祉タクシー
- 菩提樹まちかど交流サロン「福ろう」
- 認知症カフェ ふくろう茶屋

障がい児から就労、そして老後までの安心トータルサポート

